

社会福祉法人 パレット・ミルの活動

しがのふるさと支え合いプロジェクト事例報告

vol.2

観音寺地区の入り口に位置する「社会福祉法人パレット・ミル」。眺望の良い土地に建った本館・別館からなる施設には人々が集まり、入り口にふさわしい賑わいを感じられる。この施設はハンディを持つ人が自立を目指して働く場として、平成8年にオープン。最初は栗東市森林組合観音寺に位置するの木工所だけで小さくスタートしたが、今では約80名が利用する大きな社会福祉法人として成長した。



「社会福祉法人パレット・ミル」
所長 中山 みち代 氏

自立できる人へと成長していく利用者

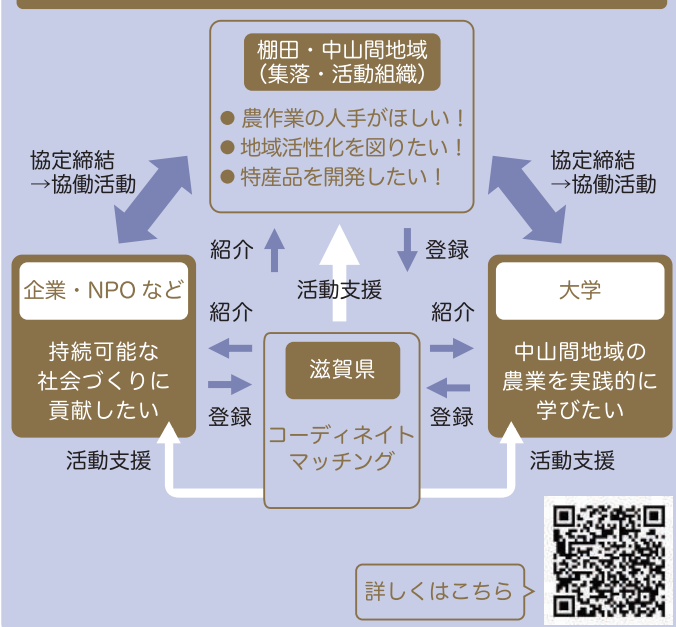
障害者が働く福祉的就労施設は滋賀県内に約200あるが、その月給は設立当初は1万円弱。それでは自立していきたくても難しい。「それならば、最低賃金保証を目指した施設、そしてハンディを持った人が仕事を選べる施設、利用者の自立の手伝いと思って始めたんです。」と語るのは、パレット・ミルを立ち上げられた中山さん。パレット・ミルの「パレット」は、木製パレットのリユース作業からスタートしたことに由来するが、絵を描く「パレット」にもかけているのだとか。利用者がそれぞれの色（個性）を持ち寄り、さらに大きな夢を描いていける場所でありたいという理念がある。利用者はそれに応える形で、清掃作業や食品加工、農作業等、様々な作業をしている。「利用者が増え、仕事が増えて施設を増設していくんですけど、建物が追いついていないんです。」と苦笑いを浮かべ、前向きな悩みを話してくれた。理念が施設を大きくした理由であることに違いないだろう。



農作業は初心者だからこそ手を取り合って

初めての農作業はブルーベリー。設立された1年後から中山さんの友人の薦めで栽培し始め、道の駅等で販売している。それに加えて、平成29年からは稲作やニンニク、高麗人参の栽培をし、本格的に農業をスタートさせた。集落の方が耕作するには人手不足で困っていると相談があり、一緒にスタートすることにになったのだ。また平成30年には「しがのふるさと支え合いプロジェクト」に参加し、農作業に必要な資機材を設備した。「農業は初心者なので、集落の方に教えてもらって作業を受け入れてくれていて集落のみなさんへ少しでも恩返しをしたいですね。」と語ってくれた。

しがのふるさと支え合いプロジェクト





かんのんじ

観音寺の紹介



天水の里 観音寺地区

栗東市の最南端に位置する観音寺地区は、市内で唯一琵琶湖を望めることができる歴史ある町。晴れた日には比叡山も見える。「観音寺」の地名は、この地にある寺院「観音寺」に由来する。道に沿って扇形に建てられた街並みには、「上の坊^{かみのぼ}」や「下の坊^{しも}」などの屋号があり、街道沿いには水路が残っていることから、かつては宿坊として栄えた町だったことが推測される。地域に古くから伝わる、旧暦2月1日に行う「おこない」という神事は、集落への疫病や邪気を追い払い退散を祈願している。文化を大事にし、自然と調和して歩んできた観音寺地区は、「天水の里」としてまちづくりを進めている。



「観音寺自治会」
自治会長 三浦 喜彦 氏

集落は大きな家族

人口は60人から70人ほどの小さい集落で、さぞかし運営が大変なのだろうと思っていたが、意外な答えが返ってきた。「14戸と少ない数の集落だからこそ、それぞれの苦労がわかる。なにをするにもみんなが協力的で、やりやすい。みんな黙っていても勝手に動いてくれる。だから自治会長もそんなに苦じゃない。」そう笑顔で語ってくれたのは、自治会長の三浦喜彦さん。自治会長は今年で3年目だそう。少ない人数で自治会や神事などを運営できるよう、時代に合わせて行事も少しずつ変えている。

14戸の中で「役」を回しているの、それぞれが毎年なにかしらの「役」に当たっており、お互いの大変さを知っているの、助け合えるのだとか。何か新しい意見が出たときも、うまくまとめるそう。その団結力は、お話を聞くだけで深い絆であることがわかった。最近、移住されてこられた人もいるそうだが、自治会活動にも参加してもらい、「役」もされているそう。移住してすぐの人に「役が当たることは珍しい集落であるし、それだけ受け入れる心が広いのだろう。観音寺地区はまさしく大きな家族なのである。」

毎月1回の天水会



「観音寺自治会」
三浦 栄一 氏

周囲が山に囲まれており、豊かな土地だからできる作物はとても美味しい。一方、担い手が不足していたことから、集落の入り口に位置する社会福祉法人パレット・ミルさんと一緒に農業をすることに。平成29年から、8反の田んぼをやってもらっている。まだ2年目だから模索中やけど、高麗人参やニンニクもつくっている。H30年にはしがのふるさと支え合いプロジェクトに参加し、農作物に必要な資機材を設備してもらい大変助かっている。「と三浦栄一さんは語る。まだまだ農作業は初心者であるパレット・ミルさんと毎月一回、会合も交えながら密に交流をとり、作業内容を確認し合っている。進んでいる。その名は天水会。まだ始まったばかりだが、観音寺の農作業と一緒に進めていくことで、農地や集落を守っていきけるようにしたい。未来に期待したい。」と語ってくれた。



お問い合わせ先

滋賀県農政水産部農村振興課 地域資源活用推進室

〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1番1号
TEL: 077-528-3963

詳しくはこちら

